



わくわくクリスマス



はろどどのクリスマス

クロケット・ジョンソン 作 小宮 由 訳 文化学園文化出版局 Eージ

はろどどはサンタクロースがくるまえに、もみのきをみつけにいきます。はろどどは、むらさきのくれよんをもって、つきといっしょにきたのもりへでかけました。サンタクロースがそりにのってやってくるのにきがついたはろどどは、くれよんでゆきをたくさんふらせます。そして、ふぶきがやむとほっきょくのように、あたりはみわたすかざりがぎんせかいになっていました。

サンタクロースっているんでしょうか？

フランシス＝P＝チャーチ 著 中村 妙子 訳 偕成社 386-サ

ニューヨーク・サンしんぶんしゃに、バージニアという八つのおんなのこから、手紙がとどきました。「サンタクロースって、ほんとうにいるんでしょうか？」というしつもんです。しんぶんしゃは、さっそく社説にとりあげてバージニアにへんじをかきました。サンタクロースをみた人がいなくても、いないというしょうめいにはならないのです。

ぐりとぐらのおきやくさま

なかがわ りえこ 文 やまわき ゆりこ 絵 福音館書店 Eーヤ

もりでゆきがっせんをしていたぐりとぐらは、ゆきのうえにいくつもつづいている、あしあとをみつけました。あとをつけていくと、たどりついたのはぐりとぐらのうちでした。なかへはいると、だれかのながぐつやぼうしがあります。2ひきがおきやくさまをさがしていると、とつぜんカステラをやくにおいがしました。

クリスマスのりんご

ルース・ソーヤー ほか文 上條 由美子 編・訳 福音館書店 933-ク

ドイツのとある町に、ヘルマン・ジョゼフという年とった時計作りがいました。子どもたちはヘルマンが大好きで、おもちゃがこわれると、ヘルマンの小さなお店にやってきました。クリスマスのまえの日、ヘルマンの家のおもてのドアがあいて、トルーデが泣きながらたっていました。

ヘラジカがふってきた！

アンドレアス・シュタインヘーフェル 著 鈴木 仁子 訳 早川書房 943-シ

クリスマスの二週間前のある晩、ぼくの家天井をつきやぶって、しゃべるヘラジカがふってきました。ヘラジカはミスター・ムースといい、サンタのそりをひいてアイルランドの上空を飛んでいましたが、カーブを切ったとき、足をすべらせてはじきとばされてしまったのです。

子うさぎましろのお話

佐々木 たづ 文 三好 碩也 絵 ポプラ社 Eーミ

クリスマスがやってきて、北の国のどうぶつの子どもたちも、サンタ＝クロースから一かいきりの、おくりものをもらいました。白うさぎの子“ましろ”は、なかでもいちばんさきに、大きなおかしと、おへやにかけ、きれいなかざりをもらいました。“ましろ”はよろこんでおかしをぺろりとたいらげてしまったので、べつの子うさぎの子になってもういちど、おくりものをもらうことをかんがえつきました。

急行「北極号」

C・V・オールズバーグ 絵と文 村上 春樹 訳 あすなろ書房 Eーヴ

クリスマス・イブの夜中に、ぼくはベッドに横になっていました。外から蒸気と金属がきしむ音が聞こえてきて、窓の外を見ると、うちの前に汽車がとまっています。車掌にどこへ行くのかとたずねると、北極点という答えがかえってきました。ぼくは列車の中にひっぱりあげられ、汽車は猛スピードで谷間を抜けていきました。北極点は大きな街でたくさんの工場があり、すべてのクリスマスのおもちゃはそこで作られているのです。